

群 教 セ	G02 - 02
	令 4. 281集
	社会 - 小

学んだことを自分ごととして捉えることのできる児童の育成

—— ICTを活用した振り返り活動や話し合う活動の工夫を通して——

特別研修員 西巻 有佳子

I 研究テーマ設定の理由

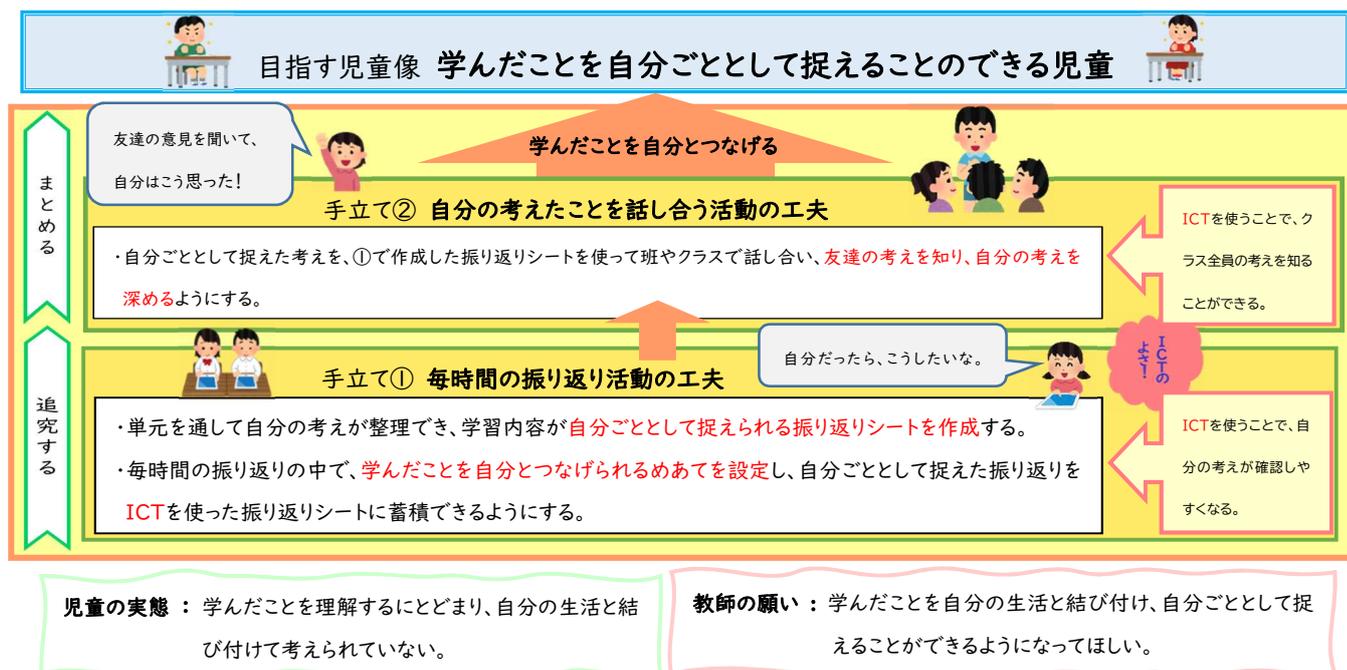
群馬県教育委員会から示された令和4年度学校教育の指針の中の、各教科の授業改善のポイント（社会）では、「諸資料から読み取れる情報を根拠とし、（中略）考えたことについて他者と語り合う活動を設定しましょう。」とあり、児童が学んだことを自分の言葉で発し他者と共有しあうことの重要性が求められている。

研究協力校の児童は、4年生までの社会の学習よりも広い地域を扱う5年生の内容に対して、地図帳や資料を見ながら、意欲的に取り組む様子が見られる。しかし、資料から必要なことを読み取り、そこから自分の考えをもち、それを友達と共有し合うという活動には、まだ慣れておらず、教師の支援が多く必要である。また、学んだことを理解するにとどまり、自分ごととして考えるような学習はできていない。このような児童が、資料の中から自ら課題を見付け、友達と話し合っただけで考えたことと自分の生活を結び付けることができるようになると、課題を追究したり解決したりする活動の充実につながると考える。

そこで、自分ごととして捉えることができるよう、毎時間振り返りをする際に、ICTを使って1枚のシートにまとめさせる。そして、最後の話し合う活動のときにそのシートを使って意見交流することを重視することとし、上記のとおり研究テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

学んだことを自分ごととして捉える児童に近づくために、2つの手立ての実践を試みた。

手立て1 毎時間の振り返り活動の工夫

手立て2 自分の考えたことを話し合う活動の工夫

手立て1は、毎時間の授業で行う振り返り活動を、ICTで作成したワークシートで行うものである。ノートで記述するよりも、整理しやすく、クラス全員のワークシートを見ることができるので、自分の考えとの比較や、話し合うときに効果的である。また、ワークシートに「自分だったらこうしたい」「自分ができることは何か」をまとめられるように、めあての設定の仕方や声掛けを工夫することで、単元の学習内容を自分の生活と関連付けて考え、表現することができ、自分ごととして捉えることができるようにした。

手立て2は、ICTを使って自分の考えたことを班やクラス全体で話し合う活動を設けるものである。

そのことによって、友達の意見を聞きながら振り返りシートも共有することができ、視覚的に分かりやすく活発な交流が行われると考えられる。また、班での話し合いを積極的に取り入れ、発表者全員が必ず意見がもらえるように、質問や感想を言うルールを設ける。そのことにより、自分の考えをもち、友達の考えを知り、新たな気づきが生まれ、自分の考えを深めるのに有効であると考えられる。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- ICTを使った振り返りシートを利用することで、前時までの振り返りが一覧で確認でき、自分の考えを整理し、自分ごととして考えを深めるのに効果的だった。
- 毎時間の振り返り活動の積み重ねが、学習内容をいつも自分ごととして捉えることにつながった。
- 自分ごととして捉えるために、手立て1の振り返りシートの発問を工夫し、視点をはっきりと児童に伝えることで、児童が学習内容を自分ごとにつなげることができた。
- 手立て2では、クラス全体や班での話し合いを取り入れることで、自分以外の考え方を知り、納得したり、疑問に思ったりすることができ、自分の考えを深めることができた。

2 課題

- テレビのモニターでICTのワークシートを映し出すためには、今回のワークシートでは文字が小さくなってしまったので、ワークシートの形を検討する必要がある。
- 班での話し合いは、全員が自分の意見を言う目的は果たせたが、場面や実態に応じては、クラス全体での話し合いだけにし、もっと質問をし合い、じっくりと話し合い、考えを深める方法も検討したい。
- 教科書で学習した内容を、他人ごとではなく、自分のこととして置き換えたり、地域のこととして考えたりすることは、社会科の学習で必要なことである。そのために、学習したことは、自分とどう関係しているかをいつも意識し、自分ごととして捉えられるような授業づくりをする必要がある。

実践例

1 単元名 「わたしたちの工業生産（自動車をつくる工業）」（第5学年 2学期）

2 本単元について

本単元では、自動車生産を通して、製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、工業生産に関わる人々の工夫や努力を捉えていく。そして、工業生産に関わる人々は、消費者の需要や社会生活の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、工業生産を支えていることを理解する。

また、製造された自動車の輸出や海外生産の学習を通して、高速道路や鉄道、航路などの輸送手段や、わが国と外国との貿易について調べたり、考えたりすることができるようにする。

以上のような考えから、本単元では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	(1) 自動車の製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、自動車生産に関わる人々の工夫や努力を理解する。 調べたことを図表や文などにまとめ、自動車生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして自動車生産を支えていることを理解する。（知識及び技能） (2) 自動車の製造工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、問いを見出し、自動車生産に関わる人々の工夫や努力について考え表現する。 自動車生産の仕事の工夫や努力と消費者の需要や社会の変化を関連付けて、自動車生産に関わる人々の働きを考え、適切に表現する。（思考力、判断力、表現力） (3) 自動車生産について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習課題を追究し、解決しようとする。（学びに向かう力、人間性等）	
評価規準	(1) 知識・技能 ① 自動車の製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、自動車生産に関わる人々の工夫や努力を理解している。 ② 調べたことを図表や文などにまとめ、自動車生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な努力や工夫をして、自動車生産を支えていることを理解している。 (2) 思考・判断・表現 ① 自動車の製造工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、問いを見出し、自動車生産に関わる人々の工夫や努力について考え表現している。 ② 自動車生産の仕事の工夫や努力と消費者の需要や社会の変化を関連付けて、自動車生産に関わる人々の働きを考え、適切に表現している。 (3) 主体的に学習に取り組む態度 ① 自動車生産について、予想や学習計画を立てたり見直したりして主体的に学習課題を追究し解決しようとしている。	
過程	時間	主な学習活動
つなぐ	第1・2時	<ul style="list-style-type: none"> 自動車の普及率や生産台数の変化、つくられる自動車の移り変わりに着目して問いを見いだす。 自動車工場の写真や円グラフをもとに、学習課題をつくり、問題解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもつ。
読解する	第3時	<ul style="list-style-type: none"> 組み立てラインの写真や組み立て工場の人の話などから必要な情報を読み取り、組み立て工場のしくみや工夫について話し合う。
	第4時	<ul style="list-style-type: none"> 図や工場の人の話から必要な情報を読み取り、自動車の部品工場の様子や関連工場と組み立て工場のつながりについて話し合う。
	第5時 第6時	<ul style="list-style-type: none"> 自動車が消費者に届くまでの過程を調べ、輸送方法や現地生産など世界とのつながりについて話し合う。 人々の願いに合わせた自動車開発について、どのように生み出されているかを調べ、自分の考えをもつ。
まとめる	第7時	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を振り返り、自動車作りの工夫や努力に着目し、自動車を自分と結び付けて考え、気付いたことを発表する。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は全7時間計画の第7時に当たる。ここでは、毎時間の振り返りシートをもとに、単元全体で自分だったらこうしたい、日本の自動車工業に自分ができることなどをシートにまとめ、自分ごととして捉える。それをもとに班で話し合い、考えを深めさせる。そのために手立てを以下のように具体化した。

手立て1 毎時間の振り返り活動の工夫

単元を通しての振り返りが、自分ごととして捉えられるように、毎時間の授業の振り返りと本時の振り返りを一枚のシートにし、既習事項と関連付けながら自分の考えを入力できるようにする。

手立て2 自分の考えたことを話し合う活動の工夫

自分の考えを深めたり、広げたりするために、班で話し合う活動を取り入れる。また、話し合いが活発になるように、発言した児童に対して、必ず感想や質問をさせるようにする。

4 授業の実際

(1) 手立て 1 毎時間の振り返り活動の工夫

第1時～第5時まで、この単元のすべての時間の振り返りをICTを使用した1枚のシートに入力させてきた。このシートを、本時の授業にも使うことで、今までの学習内容や自分の振り返りを一目で確認することができ、単元全体を通して自分の考えを表すのに有効であった。また、自動車を自分と結び付けて考え、気付いたことをまとめるという課題に対しては、このシートを使用することで、どの時間の学習内容を自分と結び付けるかという視点をはっきりさせることができ、課題解決につながった(図1)。

図1 ICTを使用した振り返りシート

このシートは、一つの画面でクラス全員のシートが見られるので、友達のタブを開くだけで、友達の考えを読むことができ、班での発表やクラス全体の発表のときも、ノートよりも分かりやすかった。本時では、児童たちの意欲的な活動の結果、以下にあるような、自分ごととして捉えるような気付きの記述につなげることができた(図2)。

- ・自分だったら、車の生産がまだ少ない国に車の作り方を教え、日本の技術を広めたい。
- ・自分は、目の見えない人でも乗れて、すごく安全性の高い自動車があると良いと思った。理由は、目の見えないおじいちゃんがいる、自分でかんたんにどこかへ出かけられなくてかわいそうと思ったから。
- ・私は、事故などが起きたときに、自動で救急車を呼んでくれる車がほしい。理由は、ニュースなどで救急車がすぐに呼べなくて亡くなってしまったのを見たから。もし、車でできたら便利だと思う。
- ・僕だったら、運転が疲れたお父さんが楽だと思ったので、全自動の車という工夫をしたい。僕にとって自動車はただ人を運ぶものだししか思っていなかったけど、自動車の作り方などを知って、自動車への思いが少し変わった。自動車を大事にしたい。

図2 自動車と自分を結び付けて考え、気付いたことを記述

(2) 手立て2 自分の考えたことを話し合う活動の工夫

本時では、自分の考えを更に深めるために、班やクラス全員での話し合いを積極的に取り入れた。班での話し合いを取り入れたことにより、全員が自分の考えを発表することができた。班での話し合いをするときには、ルールや方法を指導する必要があると、日頃から話し合いを取り入れていくことが、活発な意見交流につながると感じた(図3)。また、クラス全体での話し合いでは、更に多くの考えを知ることができた。話し合う活動をすることで、「友達の意見を聞いて、みんなも自分と同じように日本の自動車のよさに気付いていることがわかった。」「自分も目の不自由な人が運転できたらいいと思った。」「どんな人でも乗ってもらえるような自動車を作ることは大切だな。」など、自分ごととして気付いたことと、友達の気付いたことを比べることができたり、新たな気付きが生まれたりするので、自分の考えを深めるのに有効であった(図4)。



図3 班での話し合い



図4 クラスでの話し合い

5 考察

本時で活用したICTによる振り返りシートは、毎時間の振り返りの蓄積と、単元を通した自分の考えの入力を一枚のシートにしたことによって、既習事項の確認をしながら本時の活動ができ、とても有効だった。また、本単元の学習課題や、学習のまとめも同じシートに入れたことで、この単元での一人一人の学習記録が全て確認でき、児童の学んだ姿がよく分かるシートにすることができた。

さらに、授業で行った話し合いでは、児童が意欲的に発言をすることができ、多様な意見が出て、自分の考えを深めることにつながることができた。しかし、班での話し合いとクラスでの話し合いの長所をよく考え、クラスの実態に応じて取り入れ方を考える必要性を感じた。今回のクラスの実態では、発言できる児童が多いため、班よりもクラスでの話し合いに長い時間をかけて、意見交流をさせた方が考えを深めることができたと感じた。

自分の考えたことを話し合う活動を通して、自分の考えを深めるには、児童が進んで発言をしたり、友達の意見を聞いてどう思ったかを述べたり、意見交流を活発に行う必要がある。そのためには、日頃から授業で取り入れていき、児童同士で意見の交流が行われ、どの児童も発言ができるようにする学級経営も大切であると感じた。

本時のように、単元のまとめの時間では、手立て1による振り返り活動の工夫によって、自動車について自分ごととして捉えることができ、手立て2の話し合う活動の工夫によって、自分の考えを深めることができた。今後も、授業で学んだことが、自分とどう関係しているか、自分とどうつながっているかを見だし、他人ごとではなく、自分ごととして捉えられるような授業を行っていきたい。